

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月28日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○学習意欲の喚起を基軸とした教科横断的なカリキュラム・マネジメントに取組み、生きて働く知識・技能の習得及び学びに向かう力、思考力・判断力・表現力を育成する	①確かな学力育成の授業研究において、寒川高校の生徒に身に付けさせたい力を明確にしたうえで育成を図るとともに、身に付いたかどうかの評価方法も研究する。 ②教員研修を工夫充実させ、本校生徒に適した授業改善を図る。	①授業研究グループを教科ごとと教科横断的なグループの二つを設定し、それぞれのグループの視点から身に付けさせたい力について、効果的な授業展開を研究・実施する。また、その評価方法を研究する。 ②OJTを活用して効果的な授業実践を共有する。また、ICTを効果的に活用する授業事例を共有する。	①授業を通じて、生徒の能力が伸長したか。また、その評価方法が適正であったかの検証ができたか。 ②本校生徒の特性に合わせた授業づくりに取組み、指導方法等について教科の枠を超えた共有ができたか。	①教科ごと・教科横断的なグループによる研究・検討・生徒による授業評価アンケートの分析と、授業実践からのフィードバックをもとに、公開研究授業を行った。その成果をまとめ、分析を行った。授業評価アンケートの結果から、授業に対する理解が深まったことが読み取れた。 ②教員研修を通じて、生徒理解やファシリテーションの技術について学びを深めた。授業の相互見学や教員サムズアップを通じてICT活用の事例や教科横断的な視点から指導方法の共有を行うことができた。	①生徒の能力の伸長については、アンケート以外の方法でも評価する必要がある。また、どの能力が伸長したかを個別で評価する方法も研究が必要である。これらについては、課題解決型授業の設定をもとに、単元ごとの小テストなどで測る方法が考えられる。 ②今年度の研修をもとに、教科の視点と教科横断的な視点を組み合わせた授業実践の方法を共有するようにしたい。ICTの活用については、実践例の収集と本校での実践をさらに充実させる必要がある。	①②学校評価アンケートから、評価に値する結果が示されている。また、ICT活用や教科横断的な指導が図られ、できたとされている。学校としては打てる手すべて打っているように感じる。定着を図っていくためにも、家庭学習など充実させていきたい。	①授業評価アンケートの結果からも、生徒の授業に対する理解が深まったことが読み取れた。 ②教科横断的な意見交換を通じて、生徒に身に付けさせたい力を「寒高アーツ」として共有することができた。	①学校関係者評価にもあるように、家庭学習の充実に向けて、個人端末の活用も視野に入れた仕組みの構築を目指したい。 ②デジタル教材の活用により、個別最適化された学習を導入し、生徒の能力の伸長を図りたい。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①基本的生活習慣を確立させ、規範意識を醸成するとともに、安心して学校生活を送れるように生徒の心のサポートを行う。 ②生徒が自ら考え行動する活動を通じて、責任感や連帯感の醸成と達成感が得られるよう生徒会活動を充実させる。	①社会の一員として必要な、社会のきまりやルール・マナーを理解させるとともに粘り強く指導してその定着を図る。また、生徒個々に応じた組織的支援体制をさらに整理強化する。 ②心身の健康をもとに学習活動に安心して取り組める環境を整える。 ③特別活動において、他者と協働し、生徒主体で計画・実施できるよう支援する。	①全教職員で「生徒支援の指針」と「生徒対応の手引き」について共通認識を図る。また、SSEの取り組みや交流当番、下校指導などを通じて、生徒に関わりながら、生徒一人ひとりの特性を理解して、信頼関係をつくりながら、問題行動の未然防止に努める。 ②生徒の日頃の行動変化を観察し、声かけや面談の実施等による困り事や悩み事を早期に聞き取り、情報共有を密にして、組織的に支援する体制を整理確立する。 ③生徒会、各種委員会、学校行事等において、役割の目的を明確にし、計画段階から生徒を支援するとともに、生徒、職員が一体となって取り組む、	①生徒と積極的に関わりながら一人ひとりを理解して良好な関係性をつくり指導できたか。また、問題行動を起こす生徒を適切に指導し、繰り返し問題行動を起こす生徒の問題行動の発生件数を減少させることができたか。 ②職員が情報を共有し、学年団や教育相談コーディネーター等を中心にSCやSSW、外部資源等を活用しながら複数の職員による組織的かつ適切な支援体制が築けているか。 ③生徒会の各種委員会及び学年行事等において教員が関わり指導しながら、生徒が自ら他者と協力し、自らの役割を果たし、全体に貢献することによって、達成感や満足感を得ることができたか。	①全体の生徒数は減少しているものの、問題行動件数は前年度と比較して増加した。2月21日までで86件。(昨年度は54件) ②教育相談週間の実施、職員研修を行い、組織的な教育相談体制の確立ができた。また、各学年の教育相談担当を中心に、対応策の検討、SCやSSW、外部資源への連携に繋げることができた。 ③生徒会役員による定例会を実施し、その中で各種行事の活性化や学校のイメージ向上についての議論を実施した。また、各種委員会の役割の整理を行い、行事等への関わる機会の創出に努めた。	①来年度以降も「生徒支援の指針」と「生徒対応の手引き」を全教職員で共通理解のもと指導にあたる必要がある。また、教員研修会の実施を通じて、生徒とのコミュニケーションスキルを向上させ、下校指導や交流当番を実施し、問題行動未然防止に重点を置いた取組みを推進する。 ②年度始に教育相談に関する情報共有会議を開催し、転任職員を含む全職員が共通認識のもと校内支援体制を構築できるよう意思統一を図る。また、個別ケースにおける対応策の実績を蓄積し、次年度以降の改善に活かしていく。 ③生徒会以外の生徒の声を反映させるような仕組みづくりや生徒の主体的な参加を促すような行事づくりに努める必要がある。また、委員会については、活動や役割の目的を明確にして、より多くの活動の場を創出し、生徒自身の主体的な参加や活動の促進に努めていく。	①問題行動件数の増加は気になるところであるが、解決に向けての方策は、学校だけではどうにもならないことがある。規範意識の確立などに対しては家庭の協力が不可欠であるので、家庭の協力を得る手立てを考えていただきたい。 ②支援するだけでなく、受援力(助けてと声を上げる力)を付けられるような環境づくりをお願いしたい。また、自らそうしなければならぬという自己指導能力を身に付けられるような活動を取り入れてもらいたい。 ③生徒が関わりやすいように各種委員会の役割や行事の内容の整理・精査を行った。また、計画的な活動を心掛け、多くの生徒が主体的に活動できるよう努めた。一方で、部活動の加入率が低下している。	①生徒との積極的な交流を通じて、より丁寧な生徒指導を行うことができた。また、全職員でSSE等の取り組み、問題行動等の未然防止に意欲的に取り組んだ。今後も問題行動の指導件数の減少につなげていきたい。 ②教育相談に関する情報共有の機会創出、ケース会議開催や組織的に関わっていく支援体制の意識向上を図ることができた。 ③生徒が関わりやすいように各種委員会の役割や行事の内容の整理・精査を行った。また、計画的な活動を心掛け、多くの生徒が主体的に活動できるよう努めた。一方で、部活動の加入率が低下している。	①全職員で共通認識を持ちながら、生徒の実態に応じた指導方法を模索し、積極的に指導・支援を行っていく。 ②生徒自身が困りごとや悩みごとを自ら発信し、他者に頼ることができるようになるための指導やマインド形成をしてきたい。 ③生徒の主体的な参加を促すために、委員会や行事の活動内容を精査し、実行していく。また、部活動の加入向上のための方策を検討していき、生徒の課外活動の充実を促す。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月28日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○社会的・職業的自立のために、生徒に自己の在り方生き方を考えさせ、望ましい勤労観や職業観を基盤として主体的に進路を選択する能力を育成し、生徒一人ひとりの進路実現につなげる。	①生徒の希望や状況を把握し合意形成のもと、個々の適性に合った進路実現ができるよう細やかな進路指導を実践する。	①校内の支援体制及び校外の支援機関とも連携し、進路指導に関わる支援の充実を図る。また、昨年導入した求人票システムを通じ、進路指導の効率化と生徒の進路選択の最適化を合わせて進められるよう、運営面での改善を図る。だれでも対応できる進路指導体制を構築するとともに、事故防止に努める。	①生徒が目的を持って進路を選択することができたか。進路未決定者を10%以内とすることができたか。(昨年度9.8%) ①適切な支援体制のもと、進路支援を行うことができたか。	①2月26日時点で卒業予定者192名のうち、進路未決定者は31名(16.7%)。この中には現在進路活動に取り組んでいる生徒もいる。 ①求人票システムを活用し、3,500件余りの求人票を適切に処理した。昨年度から継続しているため、効率よく進路活動を進めることができた。	①進路未決定者の割合は目標の10%から6.7ポイント増加した。卒業式後も進路相談などを行い、就職などの支援を継続する必要がある。 ①進路指導に関する一連の事務手続きを共有し、全体で進路活動を支援する体制を整える必要がある。また、生徒の特性に応じた多様できめ細やかな進路支援に継続して取り組んでいく。	①生徒が社会的・職業的自立を目指して学ぶこと、働くこと、生きること、を続けていってもらいたい。	①3月24日時点での進路未決定率は24名、12.5%となり、10%を下回ることができなかった。卒業式後に就職希望者7名中5名いた。未決定者には、自ら希望して就職・進学をしていない生徒も含んでおり、進路の多様化が見られた。また、求人票システムを活用し効率よく会社探しができた。	①生徒の特性に応じたきめ細やかな進路支援を引き続き行うとともに、求人票の処理にかかる時間をさらに効率化するなど、進路指導に係る事務作業の効率化を進める。
			②キャリア教育に係る外部の資源を有効に活用し、生徒の進路意識の向上を図る。目標をもって進路実現できる生徒を育成する。	②地区インターンシップや仕事のまなび場などの体験活動や職場見学などを実施し、生徒の職業観を育成するとともに、1・2年次における生徒の進路意識の向上を図る。	②生徒の多用な進路のニーズを踏まえ、地区インターンシップや仕事のまなび場などの体験活動の周知を徹底し、参加希望者を募る。また、令和5年度と比較し体験者数を増やすことができたか。	②夏季休業期間を中心に地区インターンシップに参加した3名の生徒がキャリア体験活動に参加し、全員が地区発表会で発表することができた。	②キャリア体験活動とともに適性検査等を実施し、キャリア教育の充実を図りながら、生徒自身が進路を具体的に希望できるように、進路支援の体系化を一層進めていく。		②キャリア体験活動は参加した生徒の進路決定に役立っている。今後は参加者をさらに増やしていきたい。	②自らの意思で進路選択ができるように職業観の醸成の機会積極的に外部のキャリア体験活動に参加できる機会を紹介する。また、自らキャリアを上げる意識を持たせる。
4	地域等との協働	○寒川町唯一の高等学校として、寒川町や近隣地域、小中学校の期待に応え、地域に親しまれ、地域とともにある学校づくりを進める。	①計画的な広報活動を展開し、中学生や地域に向けて寒川高校の魅力と特色を効果的に発信する。	①中学生の進路活動を踏まえ、計画的・系統的な広報活動に取り組む。	①中学生の進路活動を踏まえた広報活動を展開することができたか。	①中学生が実際の学習環境を体験できるように学校説明会の開催方法を見直した(オンライン開催・授業体験など)。 ①寒川町との連携を強化し、交流を深めた。	①本校に対する中学生のニーズ分析を在校生徒からのアンケートを行い、広報コンテンツの改善や広報活動の改善を図っていく。	①中学生の方からアンケートなどにより、ニーズを集めていることであれば、それに対する答えを明確にする必要がある。	①アンケートはあくまでも参考とし、入学者選抜の状況を踏まえ、潜在的・本質的に必要とされる本校の広報活動の在り方を確認し共有する。	①入学した生徒がどの段階で本校への進学を目指したのか、説明会等への参加の有無も含め検証を行い、広報活動の指針を見直す。
			②HP等を組織的に更新させ、新しい情報等を提供する。	②HPの更新に加え、SNSでの情報発信を定期的に行う仕組みを整える。	②HPに最新の情報を掲載し、更新することができたか。また、SNSでの主体的な情報発信を推進することができたか。	②HPの階層を整え、学校の情報をX(旧ツイッター)により定期的に発信した。	②今後も継続して多様で組織的な情報発信を行う仕組みを整えていく。		②良いPR活動が実施されているとして評価できる。	②HPの更新に加え、SNSでの情報発信を定期的に行うなどの仕組みを継続運用する。
5	学校管理 学校運営	○事故・不祥事防止を徹底し、地域から信頼される学校づくりに努め、持続可能な学校運営と生徒に寄り添った教育を継続するための「働き方改革」を推進する。	①行事予定や施設等の管理・調整を通じた円滑な学校運営に取り組む。	①業務の効率化の視点を持ち、学校運営にかかる調整を行う。	①各グループと連携し、学校運営に係る調整を通じて、業務改善を進めることができたか。	①年間を通じて行事予定や施設等の管理・調整を行い円滑な学校運営に取り組んだ。	①次年度企画会議・職員会議の設定を変更するなど、円滑な学校運営を目指し、効果的な運用を図る必要がある。	①安全・安心・快適な教育環境を構築していってもらいたい。	①円滑な学校運営を目指し、年間を通じて行事予定や施設等の管理・調整を図った。	①今後も継続して業務効率化の視点を持ち、行事予定や施設等の管理・調整を通じた円滑な学校運営に取り組む。
			②合意形成のもと、校内融和や風通しの良い職場環境づくりを目指す。	②各種調整を通じ円滑な学校運営により、事故・不祥事防止に努める。	②自分事として、事故・不祥事防止に取り組むことはできたか。 ②職員のウェルビーイングは高まったか。	②職員が主体となった不祥事防止研修を毎月行った。	②今後も継続して職員の意識啓発を図り、事故・不祥事防止に努めていく。		②組織体制の一助となるよう、合意形成のもと、校内融和や風通しの良い職場環境づくりを推進した。	②学校運営に係る各種調整を綿密に行うとともに環境整備の充実を一層進めていく。